

經典拝読の心得

梯実圓和上

●お経を拝読するときの心得

お経は、仏陀ぶつだのさとり領域から流れ出て、私どもを真実の世界へと呼びさまし、導いてくださる言葉ですから、普通の言葉とはまったく出所が違っており、普通の言葉とは質の違った言葉であることがわかりましょう。人間の言葉は、自他を分け隔てる虚妄こもつうかんべつ分別から出てくる言葉ですから、人びとに愛欲を呼び起こすか、憎しみを呼び起こすか、いずれにしても煩惱がまつわりついています。しかし清らかなさとり領域から私の心に流れ込んだ仏陀のみ言葉は、私どもの煩惱を鎮め、生死を超える道に心を開いてくださいます。清らかな心理の領域から流れ出てくる教えを、私どもは考え方の過ちを知らせ、深く慚愧ざんきする心と呼び起こし、少しずつですがさとり領域である清浄法界へと導いてくださいます。それがお経を拝読することの意味です。

●お経を読むときと普通の書物を読むときとは、

心構えを変えなければならない

お経を拝読するときは、自分が主人公になって読むではありません。教えが主人公であって、私は自分が何者であるかを聞かせていただくのだという姿勢を探ることで、お経を拝読することの意味について、善導ぜんど大師は、お経を鏡に喩えて教えてください。お経を拝読することの意図について、昔の鏡は銅製ですから、絶えず磨き続けていないと錆さびが出て顔がうまく写らなくなります。だから鏡は絶えず磨き続けることが大事です。鏡をよく磨けば像が明らかに写るようになるといいたびもお経を拝読すれば、自身の現実の姿と、進むべき方向を明らかに知る知恵が開けてくるということ。こうしてお経を拝読することによって、自分は真実について何も知らない愚かであることを知らされ、慕うべき真実は如来であり、願うべきはそのさとり領域（浄土）であることが知らされます。それがまことのお経の読み方であるということです。